



旧見付学校だより vol. 144

令和3年12月1日

社会科見学を活用してください。

旧見付学校では、教育資料館として学校や園の子どもたちの学習に協力させていただいています。昔の学校生活の様子を学んだり、探検カードを使って昔の道具の学習をしたりすることができます。石盤に石筆で字を書いたり、昔の教科書を読んだり、昔の足踏み式オルガンを弾いたりして昔の学習を体験できます。石臼を使った粉ひき（3年生国語科「姿をかえる大豆」）など昔の道具を使う体験をすることもできます。また、綿繰り機や糸車を使った糸紡ぎ（1年生国語科「たぬきの糸車」）をお見せすることもできます。



例年、1月と2月は、学校の団体申込みが集中しますが、本年度はまだまだ余裕があります。学習の目的に応じた内容を用意してお待ちしていますので、お気軽にご相談ください。

ラジオ放送と学校教育

見学に訪れた小さな男の子が、館内に展示されている昔のラジオを見て言いました。「朝のテレビに出ているのと同じだね。」朝ドラ「カムカムエヴリバディ」では、ラジオが重要な役割を果たしています。日本のラジオ放送の始まりは大正14年。このころの受信機は月給の何倍もしたのでなかなか買えませんでした。館内展示のラジオは部品に使われている真空管の様子から昭和初期のものと推定されます。平成27年に修理を行い、今も聞くことができます。



ラジオの学校放送が始まったのは昭和8年9月。「学校へのラジオ体操」は授業時間前、「学校への音楽」は昼休み、「小学生の時間」と「教師の時間」は放課後に放送されました。下の写真は昭和8年見付尋常高等小学校（現在の磐田北小）での全校児童一斉のラジオ体操の様子です。

